

着々と進む業種別団体との連携

～全底連、沖合底曳の全船加入を決議～

さんま棒受網漁業、大中型まき網漁業に続き、沖合底曳網漁業についても「ぎょさい」全船加入運動を展開することが決定されました。

5月25日に開かれた全国底曳網漁業連合会の総会で「ぎょさい」全船加入への取り組みが今年度の重要課題として取り上げられ、組織として全船加入の促進を図ることが決議されました。これを受けて、6月には「ぎょさい」全船加入の要請文書が全国底曳網漁業連合会から所属会員あてに発信されるなど、積極的な取り組みがすすめられています。さらに、全国さんま棒受網漁業協同組合の総代会及び全国まき網漁業協会の総会でも、全船加入と契約割合引き上げの促進が昨年引き続き決議されました。

全国段階における沖合漁業の全船加入運動が順調な拡がりをみているなか、都道府県段階でも業種別団体と共済組合が連携した加入推進活動が精力的に展開されています。

青森県では、はちのへいか釣漁業協議会との合同推進により県下の中型いか釣漁業のほぼ全船が加入。鳥取県では、県沖合底曳網漁業協会や県いか釣漁業協会の協力を得た加入推進により、ほぼ全船加入を達成。高知県では、かつお一本釣組合と連携してかつお漁業の本格的推進を開始。長崎県では、県旋網漁協と協力した中型まき網全船加入運動とともに、小型いか釣協議会にも協力を求め、日韓財団補助を活用した全船加入運動を展開しています。

沖合漁業の全船加入と契約割合の向上は『パワーアップぎょさい 21』全国運動の大きな目標として掲げられています。運動の中間年度となる今年度はこの目標の達成にむけて、TAC対象漁業、日韓漁業協定関連漁業を中心に、業種別団体などとのさらなる連携強化が図られていくこととなります。